ニーズ即し拡充図る

八戸圏域水道企業団 人材育成と技術研修センター

■八戸圏域水道企業団における人材育成の方針

八戸圏域水道企業団の人材育成は、平成8年度から30年度までの計画期間で実施された「第3次水道事業総合計画～おらのほの水ビジョン～」の策定に合わせ、平成19年度に人材育成計画を策定し、運用してきました。

計画の策定時には行財政改革や団塊世代の職員の大量退職に伴う技術・技能の継承、給水収益の減少など、経営的にも技術的にも厳しい意欲や業務遂行能力を備えた人材の育成が急務となっていました。

このことから、人材育成部門では、経営者の一人であるという視点からも、「職員一人一人が成長でき職員に対する職員」を基本理念とし、水道マンとしての誇り・責任・伝承を持った職員」「柔軟性に富み、目標を掲げ挑戦し実現出来る職員」「住民の立場に立ち、考え、問題する意識」「住民のニーズに対し、迅速・丁寧に対応する職員」を育成するなど、その時々での法制度、住民ニーズに合わせて各種施策を修正、拡充しながら、人材の育成を実施しています。

また、主任技術員での研修体制の拠点として「八戸圏域水道技術研修センター」を開設、活用しています。

大久保 晶丈
総務課副参事 人事研修グループリーダー

野々口 宏樹
事務局次長兼配水課長

■技術研修センターの概要と役割

水道施設の8割に管路が占めていることから、管路を適切に維持管理していくことは水道事業者にとって重要な課題となっています。また、水道施設を整備する技術は、常に新しい法や資機材の研究・導入が進められていることから、工事の設計や施工を適正に、かつ効率的に行うために、水道事業者や施工業者には高い技術力の確保が求められています。

これらの技術的な課題に対応するため、平成22年9月に「八戸圏域水道技術研修センター」を開設しました。

この技術研修センターの運営実務には管路や管材の接合・解体などを実習するダクタイル鉄管（NS形φ150）が4レーン設けられ、「配管の施設」などの体験的な施設となっています。ほかに、大口径500のダクタイル鉄管のレーン体験を交い扱いたビット状の構造、建設現場の施工性をイメージしたものとなっているほか、各種研修室では最大48名までの座学研修が行えます。

屋外には、漏水音聴訓練設備や断水漏水修理工法訓練施設を設置しており、何より経験が必要となる資質が難しい地中漏水を特定するための練習施設となっています。

この技術研修センターでは、八戸圏域内の北奥羽広域水道総合サービス株式会社（当企業団の監理団体）が青森、北奥羽地区水道事業協議会、各事業体職員や、盛岡市上下水道局、岩手中部水道企業団職員も自動的に各種会議、研修、講習会を実施し、各団体と連携しながら技術職員の能力向上を目指しています。

また、日本水道協会が主催する「配水管・技能講習会」の北東北3県分を実施する会場としても利用されています。

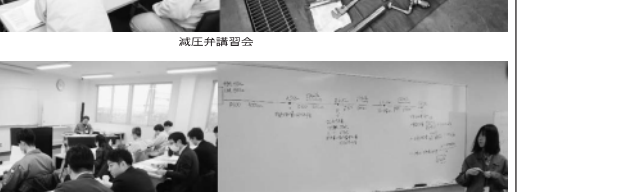
■近年力点を置いている研修

(1)既圧弁講習会

減圧弁は、水圧を動力源に無電源で自動的に作動し、出口圧力を一定保持するバルブで、オートに立ち返った研修を実施しています。

この研修は、当企業団の前身である八戸市水道部で実施していた研修を、平成以降で復活させたものです。水道にとっては当たり前の知識ですが、水理解析の基礎と変額的評価力身につくことで、技術の継承として一定の成果を挙げているものと考えています。

減圧弁講習会



水理解析研修

センターでの研修実績

種別	名称	内容
技術継承訓練講習	実技配管講習会	給水装置相立を通して配管技術の理解
	バルブ操作講習会	バルブ操作技術、通水洗管作業等
	設計積算講習会	管工事設計積算に関する知識の理解
	弁栓類分解整備講習会	消火栓・減圧弁・空気弁分解整備実技
	漏水修理工法講習会	漏水修理技術の講習
	漏水調査・管路探査技術講習会	漏水探知器・管路探知器操作方法実技
	不断水工法・分水栓穿孔講習会	不断水・分水栓穿孔操作実技
	配管技術・技能力維持向上講義会	ダクタイル管の接合技術講習・実技
	水理解析研修	水理解析の基本の理解と活用方法
職制別基本研修	管理職研修	管理職員の意識改革の推進
	中間管理職員研修	中堅職員の政策形成能力の向上
	初・中級職員研修	初・中級職員の実務能力の向上
	新任職員研修	新任職員の基礎能力についての習得

経営視点とプロ意識、挑戦に力点
減圧弁、水理解析など実践研修も

から管路の口径を求め、適正な水圧が確保できるかを確認するなので、認可申請に添付する配水管の最小動水圧の計算などにも用いられています。

「現状ではパソコンプログラムが普及し、容易に計算が行われることから、解析結果の精度や評価に関する理解が曖昧な状況も見受けられ、基本的な知識や考え方が徐々に薄れていくということが懸念されます。

(2)水理解析研修

水道分野の水理解析は、標高や距離、水需要の推移、ポンプ特性、管路の口径、作動原理・維持管理について、講義と実技を含むカリキュラムを学ぶことができ、その理解も深まるとのことで受講者の反応もおおむね好評的なものとなっています。

水理解析研修は、設以降は、メーカー関係者を講師に試験会の開催が可能となり、より多くの職員が講習会を受講しています。

例年春に実施する減圧弁講習会では、送・配水管の圧力・水位・流量制御に応用できる各種機器の構造、可社面に添付する配水管の最小動水圧の計算などを、メーカー工場に職員を派遣し、維持管理技術の向上を目的とした減圧弁の研修を受講させています。

技術研修センター開設以降は、メーカー関係者を講師として講習会を開催しています。実績として、実践的な研修を行っています。

■パートナーシップ事業

南部藩という歴史を共有し、これまでも水道事業の各分野で交流のあった盛岡市上下水道局と広域水道の発展について情報交換や職員研修などで交流を深めてきた岩手中部水道企業団との間で、パートナーシップに関する覚書を結び、積極的な相互交流や非常時の相互応援の促進をするため、各種研修会等を行っています。

各事業体で行う職員研修や各種訓練では、それぞれの事業体から参加者を派遣する形で行われるほか、最長5日間の日程で行う短期派遣研修も実施しています。

これらの研修や訓練、短期派遣に参加した職員にとって、直接的に得られる技術や知見のほか、各事業体での業務の違いや参加者との交流から得られる情報が、業務改善や業務に対するモチベーションの向上につながる貴重な機会となっています。

その効果を精査した上で、継続した取組みを行っていきたいと考えています。

■新型コロナウイルス感染症の影響

人材育成では、職員が各種研修に参加することが、当企業団でも、業務の標準マニュアル化などを通じ、各職場での取組みを進めてきました。

あわせて、内部研修では、外部講師を依頼し職員の職務に応じた知識や能力を広げ、日常の業務につながる基本的事項の習得を図っています。また、外部研修は、水道事業に関する規制や知識や技術の習得、他の業務に関する規制や知識・知見の習得、業務分野・関するより専門的な知識や技術の習得、他の情報交換や職員との交流の機会を得るため、日本水道協会など外部の団体が行う各種研修事業を利用しています。

今年度予定する内部研修・外部研修では、新型コロナウイルス感染症の影響により、すでに中止を決定したものの、実施時期が未定となっているものなど、大きな影響が出ています。5月14日には当地の緊急事態宣言が解除されたことから、感染拡大防止のための行動変容を踏まえながら、徐々に日常を取り戻していくものと思いますが、県の状況を注視しながら、全国の状況を含めた対応していきたいと考えているところです。

推進ポイントとなることから、当企業団でも、業務の標準マニュアル化などを通じ、各職場での取組みを進めてきました。

この技術研修センターでは、八戸圏域内の北奥羽広域水道総合サービス株式会社（当企業団の監理団体）が青森、北奥羽地区水道事業協議会、各事業体職員や、盛岡市上下水道局、岩手中部水道企業団職員も自動的に各種会議、研修、講習会を実施し、各団体と連携しながら技術職員の能力向上を目指しています。

また、日本水道協会が主催する「配水管・技能講習会」の北東北3県分を実施する会場としても利用されています。

パートナーシップ事業の令和元年度実施状況

	実施件数	参加者数（派遣職員数）		
		八戸圏域（企）	盛岡市	岩手中部（企）
八戸圏域（企）	10件	―	31名	21名
盛岡市上下水道局	11件	15名	―	25名
岩手中部（企）	2件	4名	7名	―

※弊日本水道新聞社の許諾を得て転載しています。記事の著作権は弊日本水道新聞社に帰属します。